



展覧会スケジュール

2026.03 → 2027.06

展覧会スケジュール

※詳細はWEBサイトでご確認ください。

2026

3

3月20日(金・祝)～6月14日(日)

企画展

ルネ・ラリック展

ーガレ、ドームから続く華麗なるフランスの装飾美術ー

ルネ・ラリック(1860-1945)はジュエリーとガラスのふたつの分野で活躍したフランスの工芸作家です。本展では、当館に寄託されている井内コレクションのラリック作品を中心に、同時代の工芸・デザイン作品をあわせてご紹介します。ラリックのジュエリーやガラス作品と、時代を映した家具やポスターなどから、フランスの装飾美術の世界をお楽しみください。



ルネ・ラリック
《ブローチ 翼のある風の精》1898年頃
国立工芸館蔵
エス・アンド・ティ フォト ©2019

4

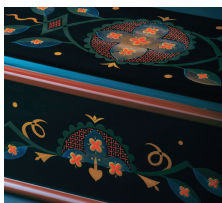
5

6

7月3日(金)～9月23日(水・祝)

こどもとおとなの自由研究
もようわくわく²

すっきり・さっぱりしたものもいいけれど、やはり模様を見ると心が沸き立ちます。なぜなら模様世界には私たちの「お気に入り」が集められ、心からの「願い事」だってこめられているのだから。単数v複数、幾何学形体v物理・化学の現象、動物v植物など模様のモチーフや表し方を見比べながらあなたの「好き」を訪ねませんか？楽しく学べるキットもご用意します。



磯矢阿伎良
《はないかだ文様長手文庫》(部分) 1934年
国立工芸館蔵

8

9

10

10月9日(金)～1月11日(月・祝)

デザイン・クロニクル展

なにが生まれて、なにが変わった？(仮称)

デザインは近代化によって生じた課題に対応するための新しいものづくりの考え方です。本展では19世紀後半のアーツ&クラフツ運動から、アール・ヌーヴォーとアール・デコ、バウハウスに代表されるモダニズム・デザイン、そして第二次大戦後の展開までのおよそ100年のデザインの流れを国立工芸館の所蔵品でたどります。



ルートヴィヒ・ミース・ファン・デル・ローエ
《MR10 椅子》1927年
国立工芸館蔵
エス・アンド・ティ フォト ©2021

12

2027

1

2

2月26日(金)～6月6日(日)

企画展

金継ぎーKINTSUGIー展

金継ぎは、やきものなどの割れや欠けを漆でつないで直し金粉を蒔いて装飾する技法です。中世から現代に至るまで続くこの修復技術の根底には、ものを守り伝えることと、不完全さに美しさを見る日本ならではの考えがあります。本展では、金継ぎの歴史とともに新たな美や価値を作品に生み出す「再生」の美学にも注目します。金継ぎのもつメッセージ性を通して、紡がれた美と再生の世界をお楽しみください。



川喜田半泥子
《志野茶碗 赤不動》1949年
国立工芸館蔵
エス・アンド・ティ フォト ©2016

4

5

6